

「時代を生き抜く力を育む授業」を目指して

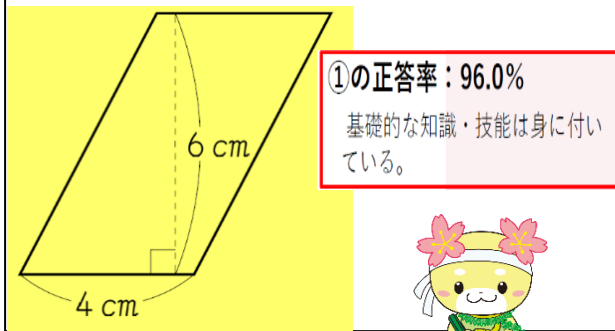
坂戸市教育委員会 令和7年2月

坂戸市教育委員会では、学校とともに、市の宝である子どもたちが今後の社会をよりよく生きていける力を育むため「授業改善」に力を入れています。保護者の皆様にも取組をご理解いただき、ご支援・ご協力をお願いいたします。

1 子どもたちに求められている学力

○ 知識を関連付けて課題を解決する力

① 次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。



①の正答率：96.0%
基礎的な知識・技能は身に付いている。

【全国学力・学習状況調査問題より】

「知識を関連付けて解く問題（応用問題）」

①の問題は解くことができるが、②のような問題を解くことに課題がある。

② 東公園の面積と中央公園の面積では、どちらの方が広いですか。答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。



②の正答率：18.2%
知識・技能を実生活の場面に活用する力に課題がある。

2 なぜ授業改善なのか ～社会の変化～

	過去	現在
社会	○高度経済成長のため、高品質なものを大量生産することが求められる	○激しく変化し予測困難、多様な他者と協働し、持続可能な社会の創り手になることが求められる
授業	○教師中心の一方的授業 ・知識偏重（理解しているかどうか） ・正解主義（正解を早く確実に）	○子ども主体の授業 ・知識・技能を活用する力（思考力、判断力、表現力等）の育成 ・学び方を学ぶこと、他者と協働することの重視

3 「授業で子どもを支える」教育

～日々の授業を充実させ、2つの柱で児童生徒の育成を目指します～

心の教育

【授業で「つながり」をつくる】

- ・聴き合う関係づくり
- ・教師が子ども同士をつなぐ働きかけ
- 【共に支え合う集団を育成する】
- ・お互いを尊重し合える学級づくり
- ⇒学校が安心して生活できる居場所へ

不登校やいじめなどの未然防止

学力の向上

【一人一人の学びを保障する】

- ・子ども一人一人が興味関心を持ち、学び続けられる授業
- ・学び方を学ぶ授業（自分で学ぶ、他者と学ぶ）
- 【確かな学力等を習得する】
- ・知識・技能、学ぶ意欲、課題発見・解決力等
- ・他者と協働する力

「生きる力」の育成

「生きる力」・・・「確かな学力」「豊かな人間性」「健康と体力」の3つの要素からなる力

4 目指す授業

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業（新学習指導要領）

- (1) 主体的な学び・・・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組む
- (2) 対話的な学び・・・他者（子ども同士、教職員、地域の人、教材等）との対話を通し、考えを広げ・深める
- (3) 深い学び・・・知識を関連付けて活用し、問題を発見し解決策を考える

【大切にしていること】

1. 安心して学べる教室環境
 - ・ 座席の工夫（目的・発達段階に応じた「ペア」「コの字」「グループ」等）
➡ わからないことを安心して聴くことができる環境づくり
2. 子どもたちが主体的に取り組む授業
 - ・ 課題の工夫（学びたくなる・学ぶ価値のある課題）
 - ・ 教師の役割（話し過ぎず、子どもの発言を活かすなど、学びが深まるようなつなぎ役）
 - ・ 教師も子どもも「聴くこと」を大切にする
 - ・ 仲間と協働して課題に取り組む学びの楽しさを実感する
➡ 基礎基本の知識・理解と思考力・判断力・表現力の育成

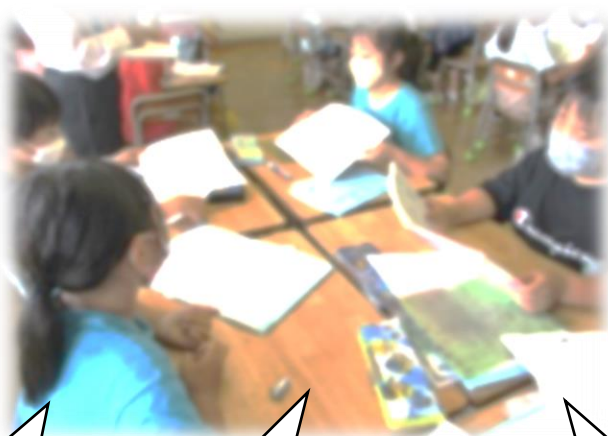
【授業改善に向けて】

- ・ 全国各地で指導にあたっている指導者を招いて、全クラスの授業参観と授業研究会を市内全小・中学校で実施しています。また、学校ごとにも自主的な研修会を実施しています。

5 成果等

○授業中ひとりぼっちになる子や学習を諦めてしまう子が減少し、多くの子が学びに前向きに取り組んでいます。

【児童・生徒の声】



友達と協力したり自分で考える時間が増えたりして、前より学習内容が頭に入る。

自分で考える力がついたり、周りの仲間と学び合ったりできて良いと思う。

友達の考えを聞いて「すごい！」と思った。新たな発見になった。

ペアがあることで友達に相談しやすい。一人で悩むより授業が楽しい。

先生が教えてくれた方がわかりやすい場面もあるけれど、その代わりに学校だけでなく、家庭でも自主的に勉強をすることが身につけてきたと思う。

6 参考

(1) 国立教育政策研究所
「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」



(2) 坂戸市学びづくりリーフレット
「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ授業を目指して」

